

第3回 常滑東小学校及び常滑西小学校の通学区域見直し説明会
(奥条地区保護者対象)

日 時	平成25年6月5日(水) 19:00~21:00
場 所	福祉会館 北館2F会議室
職 員	加藤教育長、榊原部長、澤田課長、小竹指導主事、山本指導主事、 吉房課長補佐、竹内主事、稲葉主事

○参加者： 男性 10名
女性 14名
合計 24名

○常東小保護者 : 24名
常西小保護者 : 0名

○奥条地区 : 22名
山方地区 : 1名
その他 : 1名

○1年生 : 0名
2年生 : 9名
3年生 : 0名
4年生 : 5名
5年生 : 6名
6年生 : 1名
該当無 : 5名(園児等)

○本日の流れについて（小竹指導主事より）

○あいさつ（加藤教育長より）

本日はご多用の中をお集まりいただき誠にありがとうございます。また、日頃は学校教育にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

はじめに、常東小と常西小の学校区の見直しの問題につきまして、児童、保護者や地域の方々にご心配やご不安をおかけしておりますこと、まずもって心よりお詫び申し上げます。

さて、今後、私はこのように進めてまいりたいと考えております。

まず、子どもたちに、学校が分かれても友達であり、仲間であるということ。また、常滑中学校区はもともと一つだった、お祭りに象徴されるように旧常は一つということをお伝えしたいと思います。

友達や仲間の大切さを道徳、特別活動等の時間を利用して教えていただきます。また、児童会等を利用して、そのことをテーマにして子どもたち自身にも考えて取り組んでもらいます。さらには、各行事等を利用して、子ども同士の交流を進めていただきます。

そして、3月のお別れのセレモニーへと持っていく予定です。また並行し、不安のある子は、教育相談の時間等を活用し、担任や必要があればスクールカウンセラーがフォローします。

来年度になれば、それぞれの学校で出発式が行われ、新たな学校づくりを始めます。常西小も、常東小の子どもを受け入れるのではなく、新生常西小をつくるというつもりで学校運営を進めます。

また、児童会でも、新しい学校づくりをテーマに取り組んでいくようにもっていきます。教員人事面では、常東小の子どもを知っている常東小の先生方にある程度常西小に移ってもらいます。

そして、年度当初の学年学級懇談会や家庭訪問等を利用して、家庭の様子を聞きます。5月ごろには、教育相談等の時間を活用し、子どもたちから様子を聞きます。その時にはスクールカウンセラーに助言をいただいたり、必要な子どもには、スクールカウンセラーとの面談の時間を取ったりします。

教師の観察だけでは気づけない部分があります。それを補うために、QUテストの導入も考えております。これは、不登校の可能性の高い子ども、いじめを受けている

可能性の高い子ども、学校生活への意欲が低下している子どもを発見し、早期対応に繋げることができると言われております。

学校では出会いがあり別れがあります。学校はそうした機会を通して、生きていく力を身につけていけるよう子どもたちを育てていきます。

大震災を挙げるまでもなく、これからの子どもたちの長い人生の中で、悲しい別れを経験することになるかもしれません。通学区域の変更という機会は、子どもたちに親しい友達と別れるという悲しい体験を強いるかもしれません。

しかし私は、この体験から子どもたちに大事なことを学ばせたい。悲しいことがあった時、友達はなくてはならない存在であること、仲間のありがたさ、絆の大切さ、そうしたことを子どもたちが学ぶ場にしたいと思います。

常滑地区では昭和55年に常滑小学校が常東小と常西小に分かれました。その当ても、このような話し合いが行われたと思います。しかし、その当時の子どもたちは、保護者の方や地域の方々の協力や見守りの中で乗り切ってきました。

また、常滑以外の地区でも、統廃合や通学区域の見直しは行われておりますが、子どもたちは大人たちが思っているよりもたくましく乗り切っているということを聞いております。

今回も、皆様方のご協力をいただき、子どもたちにとって価値ある機会としたいと思っております。是非、今一度、子どもたちのために皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 通学区域の見直しについて（澤田課長より）
（パワーポイント、配布資料に沿って説明。別紙資料参照）

男性 1 (保育園年長)	Q1：何人以上だとマンモス校となるのか。	A1：文部科学省では、24クラスを超えるとマンモス校という考え方をする。 現在、常滑東小は25クラス。このまま何もしないと30クラスを超えることも予想されるため、それに備える必要がある。
男性 1	Q2：将来的に常滑市の総人口は減少することが予想されるのに対し、子どもの人口は増加するであろうという根拠は？	A2：子どもの人口予測は難しく、私たちの見込んだ数値も確約はできない。 転入者を考慮せず、現在の子どもの人口からみると、平成30年度に常東小は1,020人32クラスとなり、また、常西小は310人14クラスとなることが予想され、そのことが校区見直しの発端となった。 配布資料にあるのは常東小で1,140人。これは、毎年24人程度の転入があることを想定している。もし、転入がそれ以下としても、常東小は1,000人を超えることになる。 何をもってマンモス校とするかいろいろな説はある。 子どもが多くなると目が届きにくくなり、運動会でも参加機会が減ってしまうなど弊害が生じてしまうため、校区見直しをして均等化を図りたい。
男性 1	Q3：校区見直しの対象となる地区の地権者と話し合いはなされたのか？ 校区見直しにより土地が売れなくなるのでは。	A3：地価等にどのような影響があるか予測はできない。ただ、検討会で地元の区長にも入ってもらって意見をいただいているため、地元のご意見はある程度伺っていると考えている。
男性 1	Q4：常西小の耐震化はどうなっているか？	A4：常滑市は学校の耐震工事は知多半島で最も早く実施しており完了している。体育館も耐震工事済みである。 そのため、地震が来ても校舎が崩れないという前提で、その後に来るであろう津波を想定し、対策を実施していこうと考えている。

<p>男性2 (常東小2年)</p>	<p>Q5：この説明会の位置づけとは？ 私たちが何か言ったところで、もう決まっていることのようにあまり意味がないと思う。</p>	<p>A5：検討委員会を設置し、いろいろな角度から検討させていただいた。 そのため、基本的には間違っていないと考えているが、見落とし点があったり、見直しに他に必要な部分があったりすれば全く変えないという訳ではない。 パブリックコメントや説明会でのご意見をまとめ、確認をしたうえで最終決定をしたい。</p>
<p>男性2</p>	<p>Q6：耐震化はすでに数年前に完了済みということだが、裏を返せば、東日本大震災後の対策は特になされていないのかと受け止められる。 東日本大震災では天井落下など非構造部材も問題になったが、この対策についても常西小は大丈夫ということか？</p>	<p>A6：東日本大震災前は、柱や梁など構造耐力上主要な部分に関して注目されていたが、震災後はそれだけでは足りないという指摘もある。 ただ、逆に言うと震災後も耐震基準は変わっていない。そういう面では、建物は大丈夫と考える。 ガラスは割れると危ないと考えているので、検討を進めている。 今年度、常西小の大規模改修を行うので、内装工事の中でご指摘の点について、やるべきことがあれば進めたい。</p>
<p>男性2</p>	<p>Q7：常西小の外壁にアスベストは使用されているか。</p>	<p>A7：外壁には使われていない。階段裏等一部残っている部分があるので、基準に触れるものは除去する。 市内の学校はアスベストの測定を行ったうえで、基準を超えたものは除去済みである。 ただ、ほとんど人の立ち入りが無い部分については絶対出ていないとは言い切れないので、工事を実施するときには確認して、必要であれば除去する。</p>
<p>男性2</p>	<p>Q8：南館の4階へ全員が避難できるのか。</p>	<p>A8：全員が避難できる。 また、常東小の方へ避難する方が良いのではという意見もある。 最終的に条件が整えばこの方法もあるが、古い家屋があったり道が細かったりするため危険が考えられるので、基本的には4階に避難する。</p>

		<p>しかし想定外ということが考えられるので、屋上に避難することも考えている。</p> <p>全員が避難できるように手すりの工事も進める。</p>
<p>男性3 (常東小PTAのOB)</p>	<p>Q9:パブリックコメントをもっと早く実施して意見を反映してほしい、両校の交流会をもっと早く実施してほしい。</p>	<p>A9:確かに早くやっておくべきであったと考える。</p> <p>ただ一方で、校区見直しが決まってもいないのに、このような話を進めると既成事実を作るという批判も考えられる。</p> <p>検討会は今年1月から始まり、4月に答申をいただいた。それから今回のような説明会を始めたので、遅くなったことに対し申し訳なく思う。</p>
<p>男性3</p>	<p>Q10:通学路の安全対策だが、保護者の意見も聞いて進めてもらえれば、不安も少なくなると思う。</p>	<p>A10:私たちより学校の方が良く把握しているので、学校と保護者とで話し合っただき、双方が納得の上で決めさせていただこうと考えている。一方的に決めるということはない。</p>
<p>女性1 (保育園年長)</p>	<p>Q11:教育委員会定例会で決定後にまた説明会を実施する予定はあるのか。</p>	<p>A11:こういう形での説明会は予定していない。ただ、保護者負担の問題や通学路の問題など、事務的な説明はさせていただくことになると思う。</p>
<p>女性1</p>	<p>Q12:説明会があること自体を知らない保護者もたくさんいる。</p> <p>学区を踏まえたうえで保育園に通わせる保護者も多くいると思うが、保護者への連絡はどうしているのか。</p>	<p>A12:学校を通じて保護者にお話しし、また保育園を通じて保護者に連絡している。</p>
<p>女性1</p>	<p>Q13:連絡は年長しか来ていない。</p>	<p>A13:年長より下の子どもの保護者にも連絡が届いているか確認していなかったので申し訳ない。</p> <p>保育園を通じて連絡をさせていただいたという認識で説明会を行っている。</p>
<p>女性1</p>	<p>Q14:私が小学生のころ、避難訓練ではまず机に隠れ、その後、外に出た。</p> <p>今でも一旦外に出た後、校舎4階に避難することになるのか。</p>	<p>A14:そのとおり、いったん外に出る。この時点で津波の恐れがあれば高台へ避難するか、それが難しいという判断であれば校舎4階へ避難することになる。</p>

男性2	Q15：通学中にけがをすると保険（災害給付金）が適用されるが、学区外通学をすると適用されなくなるのか。	A15：そのようなことはなく適用されるし、学区外通学なので学校は知らないということは全くない。 例えば、人数が少ない場合等で、本来の学区での通学路で見つかるような危険が見つからない可能性があるので、保護者の方でよく危険箇所のご確認をお願いしたい。
男性2	Q16：常西小は現在個別に登校しているが、これが変更されることはあるか。	A16：通学団や誘い合い登校のそれぞれに良さがある。常西小は誘い合い登校の方がよいらろうということで実施している。 常東小で通学団に慣れた子どもが常西小でも希望するなら、保護者と学校で話し合っただけ、やはり通学団の方がよければ採用させていただくということを常西小校長は言っているので、ご相談いただければと思う。
男性2	Q17：26年4月は誘い合い登校で、その後通学団となるのか。	A17：現状として誘い合い登校をしているので、基本的にはこの通りでいくが、通学団が良いのであれば事前に学校と相談していただければ検討できると思う。 2学期から通学路について具体的に検討していくことになる。 PTAの方々と一緒にどの道を通るか等検討していき、危険箇所について対策委員会で協議する。大学の教授にも参加していただき、アドバイスを受ける。 3学期になって実際に子どもたちに歩いてもらい、通学団に決まれば4月から通学団で通っていただくことになると考えている。
男性2	Q18：算数セットなどの補助は、どのような方法で行うのか。	A18：まだ決めていない。 いったん立て替えていただいて後で申請書を出していただきお返しするか、こちらで前もって購入してお渡しするか、具体的には決めていない。
男性2	Q19：常滑地区以外の学校の子どもの数はどうか。	A19：鬼崎南小は24クラスあり730人いる。
男性2	Q20：検討委員のメンバーはどんな人か？	A20：学識経験者は1名で、他にPTA代表者、子どもを守る会、子ども会、保育園代

		表者、各区長など。
男性3	Q21：大曾のバスについて。1/2という補助を確約してほしい。	A21：行革の関係でいったん廃止になったが、今回見直しによる復活なので、ぜひ守っていききたい。
男性3	Q22：常西小に移る子どもだけでなく、常東小に残る子どもも気にかけてほしい。 今の常東小のPTAの役員もほとんど常西小に移ることになるので、常東小のPTAが手薄になる。 飛香台の人でPTAの総代会にも参加しない人もいますので、常東小に残る保護者にも気を配ってほしい。	A22：私は1,000人を超える学校に勤めたことがあるが、自分の学年ですら名前と顔が一致できない状況で、子どもを褒めてあげたくても、その子がどこでどんな活躍をしているのか分からない状況だった。 また300人ほどの学校にも勤めたがその子の家族のことも十分に分かり、目が行き届きやすかったので、今回校区を見直し、メリットを十分に生かし指導していけるようにしたい。 大きな学校になると、運動会をとっても自分の出る時間は限られ、物理的にも制約されてしまう。 校区見直しにより、常東小に残る子どもたちが活躍できるような形で配慮していききたい。
男性4 (保育園年長)	Q23：東長峰のバス停より西側の子どもの多くは、現在常東小に歩いて通っている。この子どもが常西小へ行くことについてどう思うか。	A23：今までの経緯もあり、また、国も一つの目安としている通学距離4キロを示している。東長峰バス停のあたりの人は常西小まで約3キロであり、長峰周辺だと約2キロ台になる。 かじま台や北条区の最も遠い場所では距離はあまり変わらないので、不均衡が生じるという考えをもとに、東長峰のバス停から乗っていただく方を補助の対象とした。
男性4	Q24：ホームページに掲載されている答申案の参考意見の中に、長峰のバス停で下車して、そこから歩けばよいという意見があった。 これも一理あると思ったが、どう思うか。	A24：教育委員会の考えと答申案とで最も違うところと捉えている。 教育委員会としては、せっかくバスに乗ったのに、長峰で降りてそこから歩くのはいかなものかという考えである。 山方橋まで乗れば安全等を考慮しても望ましいと考えている。
女性2 (常東小5年)	Q25：今回、常東小の子どもがパブリックコメントを出したが、これに対し、	A25：大人のパブリックコメントと同じように扱わせていただき、きちんと誠意をもっ

	<p>個々に回答はしてもらえるのか。</p>	<p>て回答したい。</p> <p>ただ、大人のパブリックコメントについては似たような質問についてはまとめて回答しており、個々にお答えは出していない。</p> <p>子どもたち一人ひとりに回答がなく分かってもらえるかどうか心配している。</p> <p>文書で回答するか直接学校に行って話をするかどうか、最終的な結論は出していない。</p> <p>教育委員会として、もう少し踏み込んで子どもたちに回答ができないか考えているので、少しお時間をいただきたい。</p>
--	------------------------	--